



untitled

<http://www.kana-pie.com>

「untitled」 肩書や、形にとらわれず、自由に広がりのある活動を目指して・・・

神奈川県社会福祉法人経営青年会通信

contents

第24回社会福祉法人経営青年会全国大会 動画配信	・・・・・・ 1・2・3面
活動報告 ー研修会ー	・・・・・・ 3面
ー保育研究委員会研修会ー	・・・・・・ 3面・4面
ー令和3年度第2回総会ー	・・・・・・ 4面
お知らせ ー今後の予定・新入会員紹介・会員数・お詫びー	・・・・・・ 4面

第24回社会福祉法人経営青年会全国大会 動画配信

第24回社会福祉法人経営青年会全国大会は宮城県にて集合研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症等の影響により動画配信となりました。真壁会長が実践者として登壇した配信内容を抜粋して報告いたします。（配信内容を分かりやすく伝えるために、話し言葉を使用しています。）

組織・人材マネジメント委員会 分科会

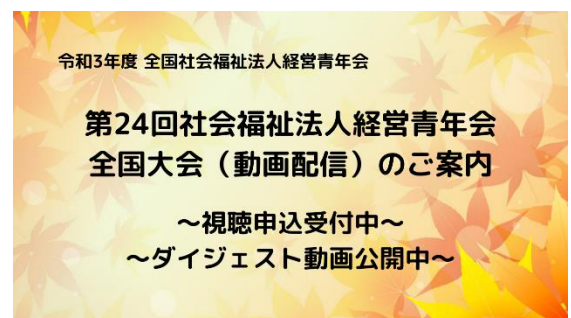
「職員が安心して働くための組織・チームづくり～心理的安全性を高めた職場実践」

司会進行：全国青年会 坂本 和恵 委員長

コメンテーター：株式会社スターフィールド 星野 周 氏

実践者①：加治木産業株式会社 真辺 ひとみ 氏

実践者②：社会福祉法人真幸会 真壁 洋道 氏



<実践発表 真壁会長>

「心理的安全性を高めるために」

私どもの法人の理念は、『安心・幸せの形づくり』。

安定した質の高いサービスを常に提供し続ける体制を作る、そのためには優秀な人材を育て、定着させていくこと。お客様に対するサービスはもちろんのこと、働く全従業員の安心・幸せを形づくっていくことを目指しています。

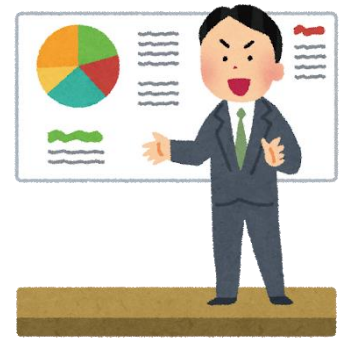
そのために、まず1番目、今日のテーマである安心して働ける職場環境作り、2番目として、職員の成長を促せる組織体制作りに着手しています。また、この2つを実現するためにどうしても欠かせないのが、永続的に運営できる強固な収支サイクルの構築です。

組織作りのために、約束事を決めています。組織のトップの目線はお客様を見ません。私は、お客様を見ない代わりに職員だけをきっちり見ます。現場の責任者、施設長や園長に対しては「お客様、また職員を同列に大事に見てください。」、また職員には「お客様だけを見てください。」と、約束事を作らせてもらいました。理事長として現場責任者、施設長や園長とコミュニケーションを重ね、法人全体の動きをオペレーションし、現場責任者は自分の管轄する部署に戻ってトップの意思を伝えて、お客様にサービスを提供する体制を構築しています。しかしながら 207 人の職員がいるので、様々な出来事が起こります。トップの私と現場責任者の 2 人で一つ一つ対応していましたが、さすがに限界が見えてきてサービスの向上まで結びつかない、というところで考えました。

現在取り組んでいる組織図は、サポートセクションです。周囲からの信頼の厚い職員、定年した優秀な責任者を現場から引き抜きました。常に私の隣で仕事をしてもらっています。問題や課題はサポートセクションが一つ一つ解決。現場の声が非常に伝わってくるようになりました。直属の上長に相談し難い内容も、サポートセクションの相談窓口を利用することができ、組織としての風通しがよくなり、隠れていた組織上の問題やほころびを速やかに解決できる体制ができました。

3 番目は、一人一人の職員にとってこのサポートセクションを通じてトップが見てくれている、という安心感が出来たのではないかと実感を持っています。また、トップが組織全体の問題点に俯瞰的に対応できるようになりました。

その他、心理的安全とは違うかもしれませんが、書類の ICT 化、残業ゼロプロジェクト、行事の効率化等を推進し、働きやすい環境をつくり、過去 4 年間の離職率も 5.8%になりました。



《トークセッション》

<星野氏>

サポートセクションについて、私は多くの企業を見ていますが、同じような組織を作ったときに責任体制が曖昧になるとか、どちらかといえばそのスーパーバイザーの方を見がちになってしまい、直接の上司との関係があまり良くなるというケースが起こりがちですけれども、その辺はどのように対処しているのかお聞きしたいと思います。

<真壁会長>

まさに、星野先生のおっしゃる通りで気を遣っています。サポートセクションにいる職員も重々その辺は承知しています。現場責任者の施設長や園長の顔を潰さないように、常に気を使いながら動いています。その場やこちらで解決するのではなく、「自分で自分の上長に相談してごらん」と言うことで、あえて手を出さないこともあります。よく話を聞くことで、きちんと見てくれていると思ってくれる職員がほとんどなので、話を聴く時間をきちんと作ることでだいぶ違うことを実感しています。

<星野氏>

もう少しお聞きしたいのが、このいわゆるサポートセクションに配属される方は、どちらかといえば経験値の高い人が配属されているのだろうと推察するのですが、そうなったときにどうしても経験で物事を捉え



がちなどころがあるかと思うのですがいかがでしょうか？

<真壁会長>

過去の経験値を中心に物を言いがちなところは心配していません。サポートセクションはが一人一人の従業員に指示することはありません。私が現場責任者に話をし、そこから従業員に下ろしてくってという体制は変えていないので。現在のサポートセクションの職員は、保育園の現場上がりですが、経験のない高齢者施設、放課後児童クラブでも実績をあげています。

<坂本氏>

皆様、貴重なトークセッションありがとうございました。

今回の実践事例発表とトークセッションを聞かせていただいて、私自身とても学びがありました。心理的安全性を作るということは本当に働いている人たちの幸せを考え、大切にするという思いから作られていくことがわかりました。これからも皆様に役立つ情報を発信してまいりますので、ともに社会福祉法人の発展に頑張っていきたいと思います。

活 動 報 告

研修会

新型コロナウイルス感染が続き活動の自粛が求められる中、2月2日（水）にオンライン座談会を開催しました。青年会会員より3名が登壇、ゲストに株式会社マイナビ 神奈川・東海営業所 営業所長 亀山 公輔 氏、社会福祉法人育生会 研修センター センター長 川村 亜希 氏、神奈川県立津久井高等学校福祉科 教員 古宮 雄大 氏の3名をお招きし、「本音で語る！魅力ある施設づくり～働く人は何を求めているか～」をテーマに意見を交わしていただきました。

座談会では、会員からは各々の法人や施設で取り組まれていること、ゲストからは求職者や職員が何を求めているかについて、それぞれお話しいただきました。内容は、高校生のボランティア参加や採用、職員教育・採用の考え方、女性の働きやすさ改革、相談窓口の活用、理念の普及の必要性、求職者数の推移などなど多岐にわたり、実際に行われている取り組みや、求職者に近い方々の生の声を聴くことが出来た、大変参考となる座談会となりました。



今回はコロナ過において、どのような研修ができるかを模索した中での開催となりました。引き続き会員の皆様のお役に立てるような研修を企画していきたいと思えます。 【研修委員 平本剛士】

保育研究委員会研修会

2月9日（水）に、Zoom オンラインライブにて研修会を開催いたしました。例年と異なりオンラインでの開催となりましたが、18名の方にご参加いただきました。講師には株式会社ヒューマンリスペクトの丸山清武氏をお招きし、「マインドマップの入門」についてご講演いただきました。

マインドマップとはトニー・ブザンが提唱した思考・発想法の一つで、頭の中で起こっていることを目に見えるようにした思考ツールです。情報整理に役立ったり、記憶力を高めたり、新しいアイデアが出てきたりするとのことです。講演の中では実際に参加者が紙とペンを使い、自己紹介のマインドマップを作成しま

した。はじめは中々考えを絵に起こすことができず、苦戦をされている方が多くいらっしゃいましたが、慣れてくると楽しみながら作成が進み、完成した後はグループごとに和やかに自己紹介が行われていました。研修会後には「和やかな雰囲気が出来てよかった」「業務で早速使ってみたい」等の声をいただきました。

最後になりますが、今回ご参加いただいた皆様、講演して下さった丸山氏をはじめ、当日のサポートや準備でご協力いただいた二口氏、事務局の古張氏に深くお礼を申し上げます。【保育研究委員 渡邊成人】

令和3年度第2回総会

例年2月に開催している総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面表決とさせていただきます。皆様にご協力いただき、第1号議案 令和3年度収支補正予算書(案)、第2号議案 令和4年度事業計画(案)、第3号議案 令和4年度収支予算書(案)、第4号議案 役員交代については、それぞれ過半数である賛成55で可決されました。【総務広報委員 石川友紀】

お知らせ

今後の予定

詳細については、案内書、またはホームページでご確認ください。

開催日	場所等	テーマ等
令和4年6月7日	TKP 横浜駅西口カンファレンスセンター ホテル横浜キャメロットジャパン	令和4年度第1回総会 研修会

新入会員紹介

高田 大輔 様 (横浜来夢会) 渡辺 友則 様 (研水会)
大畑 美歩 様 (伸生会) 益井 正純 様 (伸生会)
斗舛 もも子 様 (湘南の風) 【 順不同 】

会員状況

80名 法人数60法人 (令和4年3月31日現在)

お詫び

No.54号に掲載しました次の記事におきまして、誤りがありました。

■新入会員紹介 (正) 小片 翔三 様 (育成会)
(誤) 小方 翔三 様 (育成会)

関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

編集後記

皆様、お忙しいところ広報誌の原稿作成にご協力いただきありがとうございました。
WEB配信や、オンラインでの研修・会議にも慣れてきました。
新しい仕事のスタイルが確立されてきましたが、皆さまと直接お会いして勉強できる日を楽しみにします。

(Yuki Ishikawa)

発行／神奈川県社会福祉法人経営青年会

連絡先／〒221-0825

横浜市神奈川区反町3-17-2

神奈川県社会福祉センター7階
(福) 神奈川県社会福祉協議会
福祉サービス推進部

電話：045-534-5662

Fax：045-312-6302